

インターバンクの声（2014 年 10 月 21 日）

先週末の米国マーケットが大きく反発上昇したことを好感し、東京市場でのドル円は 107 円を回復してからの上昇スタートとなった。また、日経平均株価の 500 円超の上昇と 1 万 5,000 円台の回復もドル円を支える材料となり堅調に推移した。このように、9 月からの下落相場に歯止めがかかったかのように見えたマーケットだったが、ロンドン時間に入ってから一変、ECB のバランスシート拡大のためのカバード債の購入にもマーケットの反応は鈍く、ドル円相場は欧州株式市場の下落に引っ張られる形で先週末の終値付近に戻ってきた。こうした欧州株式市場下落の背景としては、本日の午前 11 時に発表が予定されている中国経済指標が意識されていたかも知れない。欧州を含めた世界経済に景気減速の懸念が強まっている中、中国 7-9 月期 GDP が前回値を下回るとの観測も出ている。その上、同時に発表される鉱工業生産と小売売上高の結果次第では、中国を震源地として世界のマーケットが激しく揺動する可能性もある。また、為替市場においてはドル円だけではなく中国経済に敏感度の高い豪ドルにも注目が必要だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。